



診療のご案内

「アルツハイマー型認知症に対する新規抗体 医薬レカネマブ（レケンビ®）について」



部長（教授）三原 雅史（みはら まさひと）

認定医・専門医・指導医

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、
日本神経学会認定神経内科専門医・指導医、日本リハ
ビリテーション医学会認定リハビリテーション科専門
医・指導医、日本脳卒中学会認定脳卒中専門医

昨年、アルツハイマー病の原因と考えられているアミロイドβタンパク質の脳内への蓄積を抑制する新たな薬剤であるレカネマブ（レケンビ®点滴静注）が承認され、保険収載されました。本薬剤はアミロイドβ蛋白に対する抗体製剤であり、臨床試験では脳内のアミロイドβ蛋白の除去効果が確認され、プラセボ群と比較して認知症の進行を2～3年程度遅らせることができたとされており、認知症の病態に基づく初の疾患修飾薬として注目を集めています。

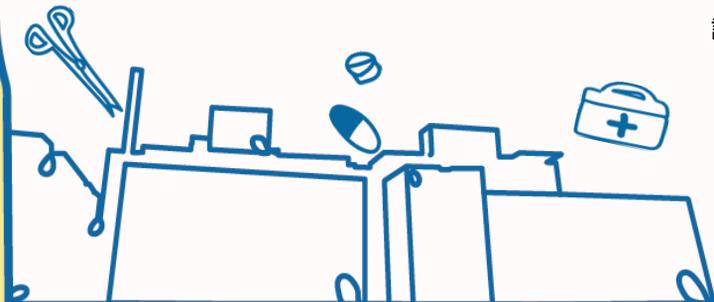
レカネマブ（レケンビ®点滴静注）の適応となる患者は、MMSE（ミニメンタルステート）検査が22点以上かつ臨床認知症尺度で0.5から1である軽度認知障害から初期認知症患者で、脳脊髄液検査あるいはPET検査などの追加検査でアミロイドの蓄積が証明されている患者に限定されます。これらの条件からもわかるように、レカネマブ（レケンビ®点滴静注）は従来の認知症薬と異なり、生活障害がほとんどない段階の早期患者を対象にした薬剤となります。一方で、本薬剤投与後に脳のむくみや出血などが起こりやすくなるなどの副作用も報告されており、リスクを避けるために投与前のスクリーニングで脳内出血のリスクを評価し、投与後も頻回のMRI検査を行うなどの対応が必要となります。

川崎医科大学附属病院では、患者さんの診察・検査から治療後の対応まで全て当院で一貫して行う体制をそろえており、すでに希望されている患者さんのスクリーニング検査などを開始しています。

“最近物忘れが気になる”、“仕事や家事等でのミスが増えてきた”など、認知症を疑う患者さんがおられましたら、ぜひ早めにご相談いただけたらと存じます。

ご不明な点は当院の認知症疾患医療センター（086-464-0661）または脳神経内科外来までお問い合わせください。ホームページ（<https://h.kawasaki-m.ac.jp/ninchisyuu/>）（以下QRコード）に詳細な情報を掲示しております。

認知症疾患医療センター
ホームページ



新任部長のご挨拶

心臓血管外科 部長 畷 大 (うね だい)

認定医・専門医・指導医

日本外科学会外科専門医・認定医、心臓血管外科専門医・修練指導者、胸部ステントグラフト実施医



2024年1月1日付けで川崎医科大学心臓血管外科学教室主任教授ならびに同附属病院心臓血管外科部長を拝命いたしましたので謹んで御挨拶申し上げます。

私は2001年に岡山大学医学部を卒業後、岡山大学心臓血管外科に入局致しました。関連病院にて研修を行った後に国立循環器病センター研究所、心臓病センター榊原病院と研鑽を積み、4年半カナダのトロント大学、オタワ大学にて北米の心臓外科を学びました。2014年に帰国後より10年間、術者として心臓病専門病院である大和成和病院（神奈川県大和市）と岡山医療センターにて開心術に従事してきました。

最近では、弁膜症、冠動脈、大動脈、末梢血管（動脈、静脈）、その各々について手術に加えてカテーテル治療や低侵襲手術も普及してきており私共の守備範囲が多岐に渡るようになりました。各治療をチーム内で完全に分担することにより、専門性を高め、様々な治療の安全性を高めていることが私共の強みだと考えております。

カナダ、神奈川、岡山にて過ごす中で自分なりに患者さんと向き合ってきましたが、患者さんたちが望むことはどこでも「根治性の高い安全な治療」なのだと感じています。地域の医療機関のみなさまの大切な患者さん達に、そのような治療が提供できるように、安全性の追求をチームの根幹に置き日々診療に励むように努めてまいりますのでどうぞよろしく願いいたします。

川崎医科大学附属病院 地域医療連携室
〒701-0192 倉敷市松島577

TEL : 086-464-1567

FAX : 086-464-1166

MAIL : renkei@med.kawasaki-m.ac.jp